

まなざし——ラインハルト・サビエ展

Witness - The Art of REINHARDT SØBYE

Kariya City Art Museum 刈谷市美術館

1999年9月25日(土) - 11月7日(日) 会期中一部展示替えをおこないます。
前期展示：9月25日(土)～10月17日(日) 後期展示：10月19日(火)～11月7日(日)

休館日：9月27日(月)・10月4日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)・11月1日(月)、4日(木) 開館時間：午前9時～午後5時 但し、金・土曜日は午後7時まで開館(入館は閉館30分前まで)

入場料：一般800円(600円)、学生(小・中・高・大学生)600円(400円) 絵本の100年展と共通チケット()内は前売り料金及び20名以上の団体料金

主催：刈谷市、刈谷市教育委員会、刈谷市美術館、朝日新聞社 後援：ノルウェー王国大使館、愛知県教育委員会 協力：スカンジナビア航空



スクレプレニカから来たマドンナ I 1995年

まなざし——ラインハルト・サビエ展

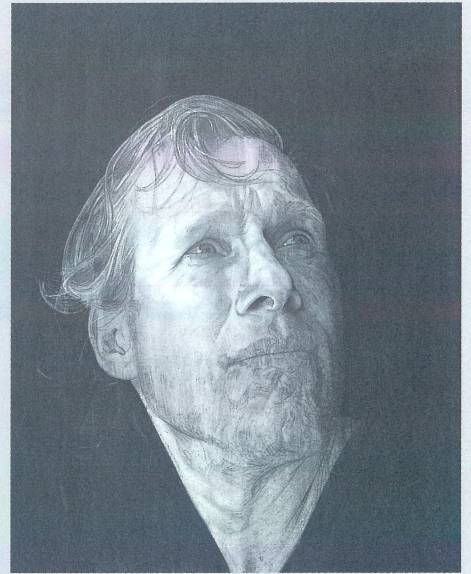
Witness - The Art of REINHARDT SØBYE



セルビアの脱走兵 1996年



傷ついた恵みの天使 1996年



「証人—自画像」1997年



夜想曲 1996年



アウシュビッツの白い犬を連れてきた男 1993年



われらは何者か? どこからきたか? どこへゆくのか? 1996年

会期中の催しもの

講演会「サビエの絵画— 現実を描くこととその先」

10月3日(日)午後2時～

講師=千葉成夫氏

(東京国立近代美術館主任研究官)

場所=美術館研修室

定員=70名[聴講無料](要整理券、
展覧会チケット)※整理券は美術館まで
お問い合わせください。

ギャラリートーク

10月16日(土)・10月30日(土)

午前10時～



1956年、北欧の国・ノルウェーのオスロに生まれたラインハルト・サビエは、大学で心理学を専攻していましたが、最終試験直前に全く新しい絵画の世界に魅せられました。大学から離れて画家を目指し、1982年からは集中的に独学で作品制作を重ねていきます。そして1987年には「ノルウェー国家秋季年次展100周年記念展」で一等を受賞するなど、非凡なる画才を開花させて迫真的な表現力で注目されるようになりました。

1994年に日本で初めて紹介されて以来、毎年開催される個展のたびに大きな反響を呼びつづけるサビエは、第1回展の際に「真の美術はすべて、見る人びとのために創造される。それは人間の共有財産である。美術家は目撃者、奉仕者、魔術師だ。イギリスの炭坑夫は、いつも小さな籠に入れた小鳥を深い坑内につれていったものだ。もし空気が不足になったら小鳥が気絶し、こうして坑夫たちにさし迫った危険について予兆した。美術家たちはいつもこのような『予兆の鳥』だったのだ。」と記しています。彼は、現代社会や文明に対する危惧を警鐘する鳥であろうとしているのです。

サビエは、現代社会が生み出す問題や矛盾を背負わざるをえない子供、女性、老人、虐げられた人々への共感を画中に刻みこんでいきます。描かれる対象は、グワッシュ、クレヨン、コンテ、パステルなどで細密に描写されますが、時には古着や紙をコラージュしたり、絵を覆うアクリルへも彩色や引っかき傷を施しています。独自の手法で表現された人物たちのまなざしからは、内に秘めた沈黙の訴えが普遍的な叫びとなって聞こえてくるようです。

本展覧会は、初期から最近までの十数年間の肖像や風景など50余点を紹介する初の大規模展です。ラインハルト・サビエの深い人間洞察からなる慈愛に満ちたメッセージをどうぞご鑑賞ください。

© REINHARDT SØBYE 1999

刈谷市美術館

愛知県刈谷市住吉町4-5 TEL.0566-23-1636

交通案内=JR・名鉄三河線[刈谷駅]下車、南口から徒歩10分

Eコマック認定の再生紙を使用しています。

